

氏名(本籍)	さ さ き けい すけ 佐々木 啓 介 (茨 城 県)		
学位の種類	博 士 (経 済 学)		
学位記番号	博 乙 第 1557 号		
学位授与年月日	平成11年9月30日		
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当		
審査研究科	社会科学研究科		
学位論文題目	不確実性と流通系列 —寡占理論とその応用—		
主査	筑波大学教授	経済学博士	酒 井 泰 弘
副査	筑波大学教授	経済学博士	井 上 正
主査	筑波大学助教授	経済学博士	平 山 朝 治
主査	筑波大学教授	応用経済学博士	黒 田 諠

論 文 の 内 容 の 要 旨

本論文は、不確実性下の寡占市場において、中間業者が介在する流通系列のワーキングとパフォーマンスを理論的に分析することによって、次のような問題を解明することを目的とする。(1) 需要不確実性が存在する市場において、情報入手者としての流通業者の役割とは何だろうか。(2) 流通業者のリスク回避行動は、製造業者への情報伝達の側面に対してどのような影響を与えるのだろうか。(3) 流通業者が先導者、製造業者が追随者である場合には、寡占市場のパフォーマンスはどのような影響を受けるのだろうか。(4) 総合商社におけるチャンネル選択や一手契約は、リスクや情報分布との関係でどのような経済効果をもたらすのだろうか。(5) もっと一般的に、需要不確実性下のシュタッケルベルク複占市場において、「先導者の利」や「追随者の利」は、リスク回避との関係でどのような影響を受けるのだろうか。これらの問題に答えるために、本論文では、不確実性と流通系列の関係を解明する理論的枠組みが構築されている。

本論文は二部構成であり、延べ9章から成る。第1部の主眼は寡占理論の流通分析への応用であり、最初の6章(第1章～第6章)から成る。第2部は不確実性下の先導-追随モデルの構築と分析を目的としており、最後の3章(第7章～第9章)から成る。

第1章においては、需要不確実性が存在する市場において、情報入手者としての流通業者の役割が分析される。そして、生産者-消費者間への流通業者の介在は必ずしも非効率的なものでなく、ある特性の状況においてはむしろ望ましい状態となりうること、また、流通系列組織とリスク回避は密接な関係にあることが示される。第2章では、情報の偏在と製造業者-流通業者間の系列、とくに先導-追随システムとの関係が解明される。従来の研究とは異なり、流通業者が先導者、製造業者が追随者の場合も分析の俎上にあげられている。第3章においては、生産者による直接販売の可能性を考慮した上で、流通系列と先導-追随性の関係が考察される。

第4章においては、分析の眼を総合商社の機能に転じている。総合商社は日本の特徴ある産業組織の一つであり、リスク処理と情報収集の側面で重要な役割を演じている。ここではとくに、多部門性とリスク回避の両側面から、総合商社の役割が理論的に分析されている。第5章では、商社におけるチャンネル選択ないし一手契約の問題が考察される。ここでは従来の研究レベルを超えて、輸入業者である商社ならびに生産要素を購入する製造業者が共にリスク回避者である仮定した上で、不確実性と情報の観点からチャンネル選択などの問題が新しく分析されている。第6章では、流通業の情報システム化に伴う情報財投資の外部性とその内部化について、詳しい分析

が行われている。

第2部においては、市場が完全に透明であるという前提を取り去り、需要ないし費用不確実性の存在を仮定した上で、非対称情報下における複占市場の均衡がどのような特徴を持つのかが一般的に解明される。第1部では上述のように流通系列に焦点を絞ったが、この第2部では、流通問題に限ることなく、より大きな理論的枠組みの上で、不確実性下の先導-追随モデルのワーキングを体系的に分析することが意図されている。

第7章においては、寡占市場の階層性の問題が解明される。とくに、シュタッケルベルク寡占における戦略的代替・補完関係の意義が詳しく分析されている。第8章では、需要不確実性に直面するシュタッケルベルク複占企業がリスク回避者であると仮定し、それが期待利潤額や期待効用レベルに及ぼす影響を与えるかが考察されている。最後の第9章においては、第8章と同一の枠組みの中で、先導者の利益や追随者の利益の問題が理論的に解明されている。そして、各複占企業のリスク回避行動を新たに考慮すれば、これらの利益に関する従来の分析結果はかなり変更されることが示されている。

審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文が不確実性と流通系列という新しい視点から、従来の寡占理論が大きく発展させたことは高く評価される。この点をさらに敷衍すれば、次のようになる。

- (1) 近年、不確実性の経済額という新しい分野が興隆し、これを従来の経済分析にどのように接続するかが、学界の大きな問題となってきている。著者はこのような流れに沿って、需要不確実性の下での寡占行動に分析のメスを新たに入れていく。とくに、企業の危険回避行動の影響の分析を積極的に行っていることは、注目に値する。
 - (2) 従来の経済理論においては、消費者と生産者が舞台の主役であり、中間の流通業者の役割が軽視されてきた。著者はこのような取扱いに満足せず、市場経済における情報入手・伝達者としての流通業者の役割に注目し、理論的なモデル展開を行っている。
 - (3) 著者は本論文の中で、従来の研究において軽視されていた市場の階層性（先導者と追随者の関係）に注目する。とくに、不確実性下のシュタッケルベルク寡占市場のモデルを取り上げ、流通系列の問題を理論的に分析したことは、特筆に値する。
 - (4) もし本論文に問題があるとすれば、モデル分析がやや一般性に欠け、線形の需要・生産関数や正規分布関数に依存していることである。だが、このことは本論文の成果を基本的に損なうものではなく、むしろ今後の研究の発展を期待させるものである。このようにやや限られた枠組みの中とはいえ、厳密な理論展開をした著者の分析能力の高さを評価すべきだと考える。
- よって、著者は博士（経済学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。